

キャンパス名	千葉キャンパス				
授業番号	10571002				
授業名	現代人の生活倫理 B	形態	講義	単位	2
担当教員	小林 秀樹				
開講学期	2025年度 前学期	曜日・時限	火曜3限		
授業目的	現代社会の特質について理解を深め、その社会を生きていくための倫理について考察し、自らを律する視点を養う。				
授業内容	現代社会に特有の倫理的諸問題、特に大衆社会、科学技術、共生社会をめぐる倫理的諸問題を中心に、西洋倫理思想の文脈でなされる議論について学ぶ。				
到達目標	・ 道徳や倫理といった社会規範が身近なものであることについて自覚を深め、それらが存在することの意義について説明することができる。 ・ 権威に盲従したり「空気」に流されたりすることの危険性を理解し、自律的に行動することの重要性について説明することができる。 ・ 科学技術がもたらす倫理的諸問題について理解し、科学技術と倫理的に向き合う姿勢について自らの見解を述べることができる。 ・ 「共生社会」に求められるいくつかの基本理念や共感の役割について理解し、その社会に参画する姿勢について自らの見解を述べることができる。				
ディプロマポリシーとの関連性	<大DP1-（５）> 人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。				
授業形態	基本的には講義形式の授業を行うが、授業業内容に関する意見交換や簡単なディスカッションを行うなど、アクティブラーニングの手法を取り入れる。 本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。 詳細は以下のURLをご参照ください。 https://www.shukutoku.ac.jp/extra/pdf/chiba2025jitsumukyoin.pdf （【千葉キャンパス】2025年度 実務経験のある教員一覧）				
事前・事後学習の所要時間	本科目では、各授業回に2時間の事前学習、2時間の事後学習を必要とする。 合計15回の授業で、事前事後学習60時間となる。				
テキスト	※この科目では指定の教科書はありません。授業内で使用する資料等については、別途授業内でご案内します。				
評価方法	事前事後学習レポート、授業内試験により総合的に評価する。				
評価基準	事前事後学習レポート60点、授業内試験40点（必須）				
試験・レポート等のフィードバック	提出を求めたレポートについては、原則次の回に講評・解説を行う。 また、14回目の授業内試験については15回目にもその解説をするとともに授業のまとめを行う。				
注意事項及び履修条件	・ 必ず授業内試験を受験すること。事前事後学習レポートの提出だけでは成績評価の対象としない。 ・ 提出するレポートについては指示する形式や日時を守って提出すること。形式に従っていないレポートについては評価対象としないので注意すること。				
S：100～90、A：89～80、B：79～70、C：69～60、D：60未満					
第1回					
事前学習	辞書や事典などで「倫理」および「道徳」という言葉について調べ、内容を自分のノートに書き写しておくこと。				
授業内容	オリエンテーション ・ 講義の目的、内容、到達目標を確認する。事前学習・事後学習の説明、講義の受け方、評価の仕方等、一連のオリエンテーションを行う。 ・ 「倫理」と「倫理学」との違い、この講義における「生活倫理」のとらえ方について整理する。				
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。				
参考文献	新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社,2000（第2章、第1節）				
第2回					
事前学習	私たちの生活を秩序あるものになっているルール（社会規範）にはどのようなものがあるか具体的な事例を考えノート1ページにまとめてくること。				
授業内容	様々な社会規範とその相違（「倫理」の位置づけ） ・ 風土や文化・慣習が異なれば、社会規範も異なることを理解する。				

	・法と倫理（道徳）との相違について理解する。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	J.レイチェルズ『現実を見つめる道徳哲学』晃洋書房,2003 和辻哲郎『風土』岩波文庫,1979

第3回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	「空気」について考える(1) ・社会生活において自覚的にあるいは無自覚に「そうせざるをえない」状況へと人々を追い込む「空気」の存在について、H.アレントによる考察を通じて考える。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 H.アレント『イエルサレムのアイヒマン—悪の陳腐さについての報告』みすず書房,1969 阿部謹也『学問と「世間」』岩波新書,2001 土井隆義『友だち地獄—「空気を読む」世代のサバイバル』ちくま新書,2008 山本七平『「空気」の研究』文春文庫,1983

第4回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート1ページに整理しておくこと。
授業内容	「空気」について考える(2) ・社会生活において自覚的にあるいは無自覚に「そうせざるをえない」状況へと人々を追い込む「空気」の存在に抗して、倫理的に振る舞うにはどうしたらよいかミルグラムによる実験を通じて考察する。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 スタンレー・ミルグラム『服従の心理』河出文庫,2012 H.アレント『人間の条件』ちくま学芸文庫,1994

第5回	
事前学習	「科学技術」という言葉について、その語源を中心に調べ、その報告をノート1ページにまとめること。
授業内容	科学技術について考える(1) ・現代社会において我々の生き方に決定的な影響を与えている「科学技術」の来歴について理解する。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	佐藤靖『科学技術の現代史-システム、リスク、イノベーション』中央公論新社,2019

第6回	
事前学習	科学技術が現代社会にもたらしている問題の一つを取り上げて調べ、その報告をノート1ページにまとめること。
授業内容	科学技術について考える(2) ・現代社会において我々の生き方に決定的な影響を与えている科学技術の是非について、どのように考えたらよいか具体的事例を通じて考察する。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	佐藤靖『科学技術の現代史-システム、リスク、イノベーション』中央公論新社,2019 開沼博『はじめての福島学』イースト・プレス,2015 DVD『フタバから遠く離れて』『フタバから遠く離れて 第二部』新日本映画社 DVD『日本と原発 4年後』Kプロジェクト

第7回	
事前学習	H.ヨナスという人物および彼の「責任倫理」について調べ、ノートにまとめること。
授業内容	科学技術について考える(3) ・これからの我々は科学技術とどのように向き合うべきか。環境倫理の問題についてH.ヨナスの「責任」という原理をもとに考える。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。

参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 ハンス・ヨナス『責任という原理〔新装版〕』東信堂,2010
------	---

第 8 回	
事前学習	前半の授業内容を振り返り、要点および疑問点をノート 1 ページに整理しておくこと。
授業内容	前半のまとめ ・これまでの授業内容を振り返るとともに、理解の要点を確認する。 ・論述形式の答案作成の練習を行うとともに、定着の度合いを自己評価する。
事後学習	授業での学びを踏まえ、答案を作成し直すこと。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014

第 9 回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート 1 ページに整理しておくこと。
授業内容	「共生」について考える(1) ・人口に膾炙している「ノーマライゼーション」の理念について、ミケルセン、ニーリエらの思想を確認しつつ、批判的に再考する。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 花村春樹『＜福祉BOOKS＞「ノーマライゼーションの父」N.E.バンク-ミケルセン[増補改訂版]』ミネルヴァ書房,1998 ベクト・ニリエ『〔新訂版〕ノーマライゼーションの原理 普遍化と社会変革を求めて』現代書館,2004 ベクト・ニリエ『再考・ノーマライゼーションの原理 その広がりや現代意義』現代書館,2008 河東田博『ノーマライゼーション原理とは何か 人権と共生の原理の探究』現代書館,2009

第 1 0 回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート 1 ページに整理しておくこと。
授業内容	「共生」について考える(2) ・従来の「平等」が男性中心に考えられてきたことについて、エヴァ・フェダー・キティの思索を手がかりに考察する。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 エヴァ・フェダー・キティ『愛の労働あるいは依存とケアの正義論』白澤社,2010

第 1 1 回	
事前学習	ユニバーサルデザインの 7 原則について調べ、それぞれの具体的事例とともにノートにまとめること。
授業内容	「共生」について考える(3) ・「バリアフリー」や「ユニバーサルデザイン」の理念を確認するとともに、その導入が意義を持つためには、我々の倫理的意識の変革が必要であることを確認する。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 川内美彦『ユニバーサル・デザイン バリアフリーへの問いかけ』学芸出版社,2001 堀正嗣編『共生の障害学 排除と隔離を超えて』明石書店,2012

第 1 2 回	
事前学習	配布資料を読み、要点をノート 1 ページに整理しておくこと。
授業内容	「共生」について考える(4) ・「共感」の道徳的役割について、D.ヒューム、A.スミス、M.シェーラーらの思索を通じて考察し、改めて現代人の生活倫理について考える。
事後学習	今回の「1. 授業の要点」ならびに授業内容に関する「2. 疑問・関心」をまとめ、授業の指示に従い提出すること。※「疑問・関心」については自らの調査結果や考察も報告することが望ましい。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014 A.スミス『道徳感情論』講談社学術文庫,2013 M.シェーラー『同情の本質と諸形式』白水社,1977

第 1 3 回	
事前学習	後半の授業内容を振り返り、要点および疑問点をノート 1 ページに整理しておくこと。

授業内容	後半のまとめ ・これまでの授業内容を振り返るとともに、理解の要点を確認する。 ・論述形式の答案作成の練習を行うとともに、定着の度合いを自己評価する。
事後学習	授業での学びを踏まえ、答案を作成し直すこと。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014

第14回	
事前学習	授業全体を振り返り、要点および疑問点を整理して授業内試験の準備をすること。
授業内容	まとめと授業内試験 ・講義内容全体の要点を確認する。 ・授業内試験を行う。なお、授業内試験の欠席者については、16回目等、後日試験を行う。
事後学習	試験内容を振り返り、ポイントや疑問点を整理して自分の言葉でノートにまとめておくこと。
参考文献	

第15回	
事前学習	授業全体を通じて学んだこと・授業を終えて疑問に思うこと・関心を持てたことなど、授業の振り返りを自分の言葉でA4用紙1枚にまとめてくること。
授業内容	授業全体のまとめ 授業内試験の解説とともに授業の総括を行う。
事後学習	授業目的や到達目標に照らして自己の学修を振り返り、向上した点や残された課題について文章にまとめる。
参考文献	河上正秀他編『変容する社会と人間』北樹出版,2014

※この他に試験が実施される場合があります。担当教員の指示に従ってください。

ディプロマポリシー	<大DP-1>【社会の構成員としての基本的知識・技能・能力】 <大DP1-（1）>日本語や英語のコミュニケーション能力を修得している。 <大DP1-（2）>情報リテラシーや数量的スキルを修得している。 <大DP1-（3）>課題発見・問題解決能力を持ち、主体性をもって協力し合う態度を身に付けている。 <大DP1-（4）>自己管理能力、倫理観、リーダーシップ、市民としての社会的責任、生涯学習力を修得している。 <大DP1-（5）>人間、社会、国際、自然等に関する広い知識と理解を有している。 <大DP-2>【専門教育分野における知識・技能・能力】 <大DP2-（1）>自らが学んだ学位プログラムの基礎となる原理・原則を理解し、それに基づく体系的専門知識を修得している。 <大DP2-（2）>修得した体系的専門知識を、実践の場において活用する技能や態度を修得している。
-----------	---